

## 包括システムにおける ロールシャッハ諸変数の性差

Differences of the Rorschach Variables between the Sexes

小西宏幸 (関西大学社会学研究科)

西尾博行 (水間病院附属臨床心理学研究所)

Hiroyuki Konishi (Major of Social Psychology, Kansai University)

Hiroyuki Nishio (Clinical Psychology Institute, Mizuma Hospital)

### 要 旨

ロールシャッハ反応における性差を研究する目的で、20歳以上の健康な成人120名(男性60名、女性60名)を対象に、包括システムによるロールシャッハ・テストを個人法で実施した。得られた資料を基に、男性群と女性群ごとに主要変数について記述的統計を求め、さらに解釈に当たって Exner, J. が提示している基準値を判別点として、2群間の出現頻度を求めた。Wilcoxon の順位和検定と  $\chi^2$  検定により、7変数と8項目で有意差を認めた。このうち男性群で有意に高かったものは、X-%、LAMBDA、 $FM < 2$ 、 $FM + m < 3$ 、 $COP < 2$ 、 $(H) + (Hd) + (A) + (Ad) > 3$ 、 $X - \% > .15$ 、 $DQv = 0$ 、CDI陽性であった。一方女性群で有意に高いのは、Isolate、Ma、Na、COP、 $DQv$ 、 $DQv > 1$ であった。これらの結果を従来の研究結果と比較したところ、男性群におけるハイ・ラムダ傾向は従来の見解と一致したが、領域や体験型、MやFC、Hや顔反応の多さなどには有意差を認めなかった。さらに有意差の認められた指標を他の変数との関連から検討し、Exner, J.の基準値を用いる際の問題点を考察し、日本人被検者の資料に基づく基準値の必要性を論じた。

### Abstract

Individual Rorschach tests by the Comprehensive System were administered to 120 normative adults (60 males, 60 females; over 20 years old) for the comparative study between the sexes. Based on this data, we, at first, described the statistic data of major variables between two groups, and then summarized and interpreted the incidences of these variables between the two groups using the standard data presented by Exner, J. as discriminative ones. We found the significant differences in seven variables and eight items between the groups by Wilcoxon-Test and the  $\chi^2$ -Test. The following data was dominant significantly in the male group: X-%, Lambda,  $FM < 2$ ,  $FM + m < 3$ ,  $COP < 2$ ,  $(H) + (Hd) + (A) + (Ad) > 3$ ,  $X - \% > .15$ ,  $DQv = 0$ , and CDI-positive. In contrast to the male group, the female group showed a high incidence of the Isolation Index, Ma, Na, COP,  $DQv$  and  $DQv > 1$ . Comparing these results to the previous research data, we could find the same tendency of High Lambda Style in males. But there were no significant differences in the data such as Locations, EB style, M, FC, H and numbers of face responses. Furthermore We discussed about some indexes which were recognized as significantly different ones in the relation to the other variables. Through these discussions, we pointed out some problems on using the standard data presented by Exner, J. as the basic data for Japanese, and emphasized on the necessities for providing the standard data from our Japanese population.

キー・ワード：包括システム、性差、ロールシャッハ・テスト

Key Words : Comprehensive System, sex differences, Rorschach Test

はじめに

心理学の研究において、性別という被検者の属性変数は、最も基本的で常に注目されてきた。多くの研究では、収集するデータサンプルに偏りがないように、男性と女性の被検者数を同数にし、性による差異を可能な限りコントロールすることにより、研究で得られた結果や知見の普遍性をより高めようとしている。

一方、男性と女性の心理特性の比較を目的とした研究も行われており、女性心理学 (Hyde: 1985、村山: 1987) やパーソナリティの研究においては、性差を考慮した研究も多い。たとえば、YG 性格検査や MMPI などの質問紙法では、性差を考慮して男女別に標準得点が計算されている。

これと関連するが、ロールシャッハ・テストの研究においても、ロールシャッハ反応の性差を検討した研究報告もなされている。例えば、笹田(1993)は、これまでに行われたロールシャッハ・テストにおける性差の研究結果を表1のようにまとめている。

笹田は、中年期女性の心理的特性をロールシャッハ・テストにより調査し、中年期女性15名と女子大生15名のプロトコルに基づく年代間の差異を考察するとともに、男女それぞれ30名のプロトコルに基づいてロールシャッハ反応の性差を考察している。笹田による性差の検討は分散分析によっており、性差の主効果の認められた変数のうち、M、FM、FM+mは男性よりも女性に、F%・ΣF%は女性よりも男性に多い傾向が示唆されている。

また Exner, J.(1990)も、健常成人の記述的統計を提示するにあたり、性による違いはあまりないとしながらも、ロールシャッハ反応の性差を考慮して、男女別の記述的統計の資料を示している。これに対して我が国における包括システムの研究は、ようやく始まったばかりであり、現状ではアメリカで標準化された各種統計値を解釈に当たってもそのまま

表1 ロールシャッハ反応における性差

	領域	決定因子	反応内容
男子	W優位 (高Dの者と、高Wの者に分かれるという結果もある)	F%高 M少	H%低
女子	D優位	M優位 F C優位 内向型	「顔反応」多

(笹田 (1993) より引用)

適用している状況である。我が国での標準化が待たれるが、日本人被検者を対象としたさまざまな基礎研究を積み重ねていくことも重要であろう。本研究で取り上げた性差の問題も、そうした基礎研究の一つであると我々は考えている。

目 的

本研究の目的は、男性と女性のロールシャッハ反応を比較し、両群間の差異を検討することである。既述のように、我が国における包括システムに関する研究は少なく、日本人被検者の記述的統計に性差が認められるかどうかを検討した研究は見られないし、また解釈に当たって Exner が示した基準値を用いることの問題点や性差の問題を検討した研究も行われていない。あらためて述べるまでもなく、ロールシャッハ反応の文化による差異を無視することはできず、Exner の示した基準値を我が国の被検者にそのまま適用することには慎重であるべきだと我々は考えている。しかし、現時点では日本人被検者の資料に基づく解釈における基準値は明らかにされていない。そのため解釈に当たって Exner の基準値を用いざるを得ないことも事実であろう。本研究では、こうした点も考慮して、記述的

統計による性差の検討ともに、Exner の基準値に基づく性差の検討も行い、その問題点を考察する。

## 方法

### 被検者

本研究の被検者は、20歳以上の健康な成人であり、男性60名、女性60名の計120名である。男性群は、30名が4年制の私立大学生、30名が会社員や自営業の就労者であり、平均年齢は30.6歳（標準偏差10.8）であった。なお既婚者は26名である。

女性群は、30名が4年制の私立大学生、30名が会社員・自営業などの就労者や専業主婦であり、平均年齢は33.5歳（標準偏差13.8）であった。なお既婚者は28名である。

### 手続き

全ての被検者に、個人法によってロールシャッハ・テストを実施した。実施法とスコアリングはExner (1986, 1993) の包括システムを日本人被検者に適用した高橋・西尾 (1994) の基準に準拠した。また、構造一覧表はCSDSP Ver.2 (高橋・西尾) によって作成した。なお本研究の資料は、小西が個人法でロールシャッハ・テストを実施して得た120名のプロトコルである。スコアは包括システムに習熟した5名以上の者の合議により決定した。

### 分析方法

まず、主要変数の記述的統計を男女別に算出し変数ごとにWilcoxonの順位和検定を行った。次に比率・パーセンテージ・特殊指標・その他の変数について、解釈に当たりExnerが示した基準値を判別点として、各項目について男女別の出現頻度を求め $\chi^2$ 検定を行った。

## 結果

本研究で検討した90の主要変数の記述的統

計を表2に示す。表2に示したとおり、7変数(7.8%)に有意差が認められた。

表2 男女の主要変数の記述的統計

(上段：男性/下段：女性)

Variable	Mean	ST.D.	Median	Mini.	Max.
R	20.92	5.416	19.50	14.00	37.00
	20.45	4.670	19.00	14.00	35.00
W	10.53	4.428	10.00	3.00	25.00
	9.47	3.143	10.00	2.00	18.00
D	8.15	4.494	7.00	0.00	23.00
	8.88	4.629	8.00	2.00	26.00
Dd	2.23	1.407	2.00	0.00	5.00
	2.10	1.504	2.00	0.00	6.00
S	2.77	1.750	2.50	0.00	7.00
	2.20	1.675	2.00	0.00	7.00
DQ+	4.85	2.893	5.00	1.00	17.00
	4.87	2.473	4.50	1.00	14.00
DQo	14.87	4.002	14.00	8.00	26.00
	13.97	4.194	14.00	6.00	26.00
DQv	0.92	1.197	0.00	0.00	5.00***
	1.50	1.321	1.00	0.00	6.00
DQv/+	0.28	0.524	0.00	0.00	2.00
	0.12	0.324	0.00	0.00	1.00
FQXNone	0.00	0.000	0.00	0.00	0.00
	0.05	0.219	0.00	0.00	1.00
M-	0.13	0.343	0.00	0.00	1.00
	0.08	0.279	0.00	0.00	1.00
Mnone	0.00	0.000	0.00	0.00	0.00
	0.03	0.181	0.00	0.00	1.00
M	3.03	2.291	2.50	0.00	14.00
	3.18	2.174	3.00	0.00	10.00
FM	3.20	2.496	3.00	0.00	11.00
	3.47	1.827	3.00	0.00	8.00
m	0.82	0.965	1.00	0.00	4.00
	0.82	0.983	1.00	0.00	5.00
FM+m	4.02	2.861	3.50	0.00	11.00
	4.28	2.092	4.00	0.00	9.00
FC	1.67	1.829	1.00	0.00	10.00
	1.70	1.522	1.00	0.00	5.00

CF	1.30	1.266	1.00	0.00	5.00		3.02	1.799	3.00	0.00	8.00
	1.63	1.301	2.00	0.00	6.00	Ma	1.57	1.598	1.00	0.00	6.00
C	0.05	0.220	0.00	0.00	1.00		2.05	1.890	2.00	0.00	9.00
	0.05	0.220	0.00	0.00	1.00	Mp	1.47	1.346	1.00	0.00	8.00
CF+C	1.35	1.299	1.00	0.00	5.00		1.15	1.176	1.00	0.00	4.00
	1.68	1.295	2.00	0.00	6.00	Intelle	1.15	1.527	1.00	0.00	7.00
Cn	0.00	0.000	0.00	0.00	0.00		0.85	1.055	0.50	0.00	5.00
	0.00	0.000	0.00	0.00	0.00	Zf	13.33	4.482	13.00	6.00	31.00
1) ALL C	3.02	2.534	2.50	0.00	15.00		12.10	3.388	12.00	5.00	23.00
	3.38	2.034	3.00	0.00	11.00	Zd	-1.01	4.996	-1.25	-9.00	17.00
WGSumC	2.20	1.829	1.75	0.00	10.00		-2.85	4.003	-3.50	-12.00	6.00
	2.56	1.535	2.50	0.00	8.50	Blends	2.27	2.122	2.00	0.00	12.00
SUM C'	1.42	1.344	1.00	0.00	5.00		2.47	2.087	2.00	0.00	10.00
	1.63	1.728	1.00	0.00	8.00	ColShaBl	0.36	0.581	0.00	0.00	2.00
SUM T	0.38	0.613	0.00	0.00	2.00		0.43	0.767	0.00	0.00	4.00
	0.48	0.748	0.00	0.00	3.00	Afr	0.44	0.132	0.42	0.21	0.82
SUM V	0.13	0.343	0.00	0.00	1.00		0.49	0.174	0.44	0.20	0.92
	0.23	0.465	0.00	0.00	2.00	Popular	5.10	1.526	5.00	2.00	9.00
SUM Y	0.50	0.911	0.00	0.00	4.00		5.47	1.620	5.00	2.00	11.00
	0.53	0.650	0.00	0.00	2.00	Common	0.78	0.715	1.00	0.00	2.00
SUM Shd	2.43	2.110	2.00	0.00	10.00		0.75	0.794	1.00	0.00	2.00
	2.87	2.205	3.00	0.00	11.00	X+%	0.71	0.104	0.71	0.47	1.00
Fr+rF	0.23	0.593	0.00	0.00	3.00		0.72	0.114	0.74	0.45	0.93
	0.08	0.279	0.00	0.00	1.00	F+%	0.69	0.142	0.70	0.33	1.00
FD	0.62	0.739	0.00	0.00	3.00		0.69	0.180	0.72	0.00	1.00
	0.65	0.755	0.50	0.00	3.00	X-%	0.09	0.068	0.08	0.00	0.27**
PAIR	5.48	3.011	5.00	0.00	13.00		0.06	0.055	0.05	0.00	0.33
	6.03	2.876	6.00	1.00	13.00	Xu%	0.19	0.094	0.19	0.00	0.38
3r+(2)/R	0.29	0.130	0.29	0.00	0.58		0.21	0.099	0.21	0.00	0.43
	0.30	0.131	0.31	0.05	0.67	S-%	0.13	0.244	0.00	0.00	1.00
LAMBDA	1.13	0.698	0.96	0.16	4.20*		0.17	0.338	0.00	0.00	1.00
	0.95	0.913	0.71	0.15	6.50	Isolate	0.14	0.120	0.13	0.00	0.52*
EA	5.23	3.407	4.75	1.00	24.00		0.18	0.096	0.17	0.00	0.40
	5.74	3.002	5.25	0.50	18.50	H	2.40	1.659	2.00	0.00	11.00
es	6.45	3.920	5.50	1.00	19.00		2.57	1.721	2.00	0.00	8.00
	7.15	3.364	7.00	1.00	16.00	(H)	0.82	1.017	0.50	0.00	3.00
D-Score	-0.30	1.418	0.00	-5.00	5.00		0.67	0.837	0.00	0.00	3.00
	-0.40	1.182	0.00	-5.00	2.00	Hd	1.02	1.172	1.00	0.00	5.00
AdjD	-0.15	1.246	0.00	-4.00	5.00		1.08	1.306	1.00	0.00	7.00
	-0.30	1.225	0.00	-5.00	2.00	(Hd)	0.58	0.904	0.00	0.00	4.00
Active	3.77	3.022	3.50	0.00	12.00		0.38	0.613	0.00	0.00	2.00
	4.45	2.561	4.00	0.00	13.00	ALL H	4.82	3.034	4.00	1.00	20.00
Passive	3.28	2.051	3.00	0.00	11.00		4.70	2.599	4.00	0.00	13.00

A	7.43	3.285	7.00	2.00	15.00
	7.17	3.009	7.00	2.00	17.00
(A)	0.67	0.876	0.00	0.00	4.00
	0.50	0.725	0.00	0.00	2.00
Ad	3.03	1.931	3.00	0.00	8.00
	2.52	1.546	2.00	0.00	7.00
(Ad)	0.27	0.482	0.00	0.00	2.00
	0.23	0.464	0.00	0.00	2.00
2) ALL( )	2.33	1.753	2.00	0.00	7.00
	1.78	1.366	2.00	0.00	6.00
An	0.40	0.764	0.00	0.00	4.00
	0.45	0.790	0.00	0.00	4.00
Xy	0.08	0.279	0.00	0.00	1.00
	0.10	0.354	0.00	0.00	2.00
An+Xy	0.48	0.792	0.00	0.00	4.00
	0.55	0.811	0.00	0.00	4.00
Art	0.70	1.030	0.00	0.00	4.00
	0.62	0.845	0.00	0.00	3.00
Ay	0.22	0.490	0.00	0.00	2.00
	0.10	0.302	0.00	0.00	1.00
Bt	1.57	1.769	1.00	0.00	8.00
	1.92	1.544	2.00	0.00	6.00
Cl	0.10	0.354	0.00	0.00	2.00
	0.05	0.220	0.00	0.00	1.00
Cg	1.20	1.471	1.00	0.00	9.00
	1.53	1.556	1.00	0.00	8.00
Fd	0.53	0.833	0.00	0.00	3.00
	0.40	0.741	0.00	0.00	4.00
Ge	0.13	0.468	0.00	0.00	3.00
	0.07	0.312	0.00	0.00	2.00
Ls	0.72	0.885	0.50	0.00	4.00
	0.72	0.885	0.00	0.00	3.00
Ma	0.10	0.302	0.00	0.00	1.00 ※
	0.27	0.482	0.00	0.00	2.00
Mu	0.38	0.555	0.00	0.00	2.00
	0.42	0.561	0.00	0.00	2.00
Na	0.20	0.546	0.00	0.00	2.00 ※
	0.33	0.542	0.00	0.00	2.00
Sum6SpSc	1.13	1.308	1.00	0.00	7.00
	1.13	1.081	1.00	0.00	4.00
Sum6SpS2	0.03	0.181	0.00	0.00	1.00
	0.03	0.181	0.00	0.00	1.00
Wsum6	2.00	2.449	1.00	0.00	11.00

	2.62	2.719	2.00	0.00	12.00
AB	0.12	0.555	0.00	0.00	3.00
	0.07	0.251	0.00	0.00	1.00
AG	0.23	0.647	0.00	0.00	4.00
	0.23	0.465	0.00	0.00	2.00
CFB	0.00	0.000	0.00	0.00	0.00
	0.00	0.000	0.00	0.00	0.00
COP	0.58	0.766	0.00	0.00	3.00 ※
	1.13	1.214	1.00	0.00	5.00
CP	0.00	0.000	0.00	0.00	0.00
	0.00	0.000	0.00	0.00	0.00
MOR	0.40	0.741	0.00	0.00	3.00
	0.42	0.671	0.00	0.00	3.00
PER	0.47	0.747	0.00	0.00	3.00
	0.72	0.940	0.00	0.00	3.00
PSV	0.30	0.530	0.00	0.00	2.00
	0.20	0.546	0.00	0.00	3.00

Wilcoxonの順位和検定 ※p<.05 ※※p<.01

1) ALL C : FC+CF+C+Cn

2) ALL( ) : (H)+(Hd)+(A)+(Ad)

表3に、150項目中出現頻度に男女間で有意差が認められた8項目(5.3%)を示した。

表3 有意差の認められた項目と各群の頻度

諸変数の項目	男性 N=60	女性 N=60	$\chi^2$
FM < 2	16	7	※
FM+m < 3	21	10	※
COP < 2	55	39	※※
(H)+(A)+ (Hd)+(Ad) > 3	18	5	※※
X-% > .15	13	3	※※
DQv=0	31	17	※
DQv > 1	16	29	※※
CDI陽性	30	19	※

※p<.05 ※※p<.01

有意差の認められた主要変数をみると、男

性群ではX-%とLAMBDAが高く、女性群ではDQv, Isolate, Ma, Na, COPが高かった。

次に、有意差の認められた項目では、男性群でFM < 2, FM + m < 3, COP < 2, (H)+(A) (Hd)+(Ad) > 3, X-% > .15, DQv = 0, CDI陽性の者の頻度が高く、女性群でDQv > 1の者が多かった。

これらの結果を総合すると、男性群ではX-%とLAMBDAが高く、FMやCOPが少ない者が多く、(H)+(A)+(Hd)+(Ad) > 3が多い者とCDI陽性の者が多いと言える。また女性群では、DQvとIsolate、COPが高いことが明らかとなった。

### 考 察

本研究で検討した90変数と150項目中、男女間に有意差が認められたものは、7つの変数と8つの項目であった。この結果は、Exnerも述べているように、包括システムによるロールシャッフ反応には性による差があまりないと言えよう。しかし、解釈に当たっては、これらの有意差の認められた変数や項目を慎重に検討する必要がある。

本研究の結果を従来の研究結果と比較すると、男性におけるハイ・ラムダ傾向は従来の見解と一致するものの、笹田が指摘した、領域では男性がW優位で女性がD優位とはならなかったし、体験型に差はみられなかった。またMやFC、人間反応や顔反応の多さなどにも、両群間に差異を認めなかった。また、Exnerの男女別の記述的統計と比べると、女性群が男性群よりもわずかにDQvとIsolate(孤立指標)が高いという点では一致しているが、LAMBDA、X-%、COPについては一致しなかった。

次に、本研究で男女間に有意差の認められた孤立指標とCDIについて考察を加えていきたい。

#### 孤立指標

孤立指標は、R(反応数)とBt, Cl, Ge,

Is, Naの5つの反応内容により、次の計算式により算出される。

$$\text{孤立指標} = (\text{Bt} + 2\text{Cl} + \text{Ge} + \text{Is} + 2\text{Na}) / \text{R}$$

この孤立指標の計算式で用いられる変数のうち本研究の被検者で男女間に有意差の認められた変数はNaのみであり、女性群に多いという結果であった。Na以外の反応内容の出現率に男女間で有意差を認めないことから、女性群で孤立指標が高いという本研究の結果は、女性群でのNaの多さによると考えられる。しかしこの結果が健常成人の特徴と言えるのかどうかは、さらに被検者数を増やして検討する必要があるであろう。また臨床群でも同様の結果となるのかあるいは他の反応内容の頻度が上昇するのか、などさらに検討する必要がある。これに関連するが、高橋・北村(1981)は、植物反応(Bt)が男性よりも女性に多く生じると述べている。本研究の結果でも、Btは傾向水準(Wilcoxonの順位和検定:  $p < .086$ )にとどまるものの、女性群で多い傾向にあり、孤立指標における両群の差異が、Na以外の反応内容にも依っている可能性も強いと考えられる。いずれにしても孤立指標を性差という側面のみから理解することには限界があり、臨床群を対象とした研究によって、今後さらに検討していくべき課題といえよう。

#### CDI

CDI陽性の頻度には男女間で有意差がみられたが、この点をさらに検討するためCDIを構成する下位条件ごとに表4に示すような男女群の頻度を得た。

男女間の頻度を $\chi^2$ 検定した結果、有意差の認められたものは、COP < 2 and AG < 2のみであった( $\chi^2 = 10.753$ ,  $df=1$ ,  $p < .005$ )。更に、COP < 2とAG < 2を別々に検討すると、COP < 2には有意差が認められたが( $\chi^2 = 12.570$ ,  $df=1$ ,  $p < .001$ )、AG < 2に有意差は認められなかった( $\chi^2 = 0.342$ ,  $df=1$ ,  $p < .70$ )。すなわち、本研究の被検者のほとんどの者が

AG<2に該当し(男女間でも差はない)、この下位条件に該当するかどうかは、COP<2であるかどうかによっていた。したがって、COP<2に該当する者の多い男性群でこの下位条件の該当者が多く、結果として男性群のCDI陽性が多くなったと考えられる。このことから、本研究の結果からみる限りにおいて、CDI指標における両群間の差異に、COP<2における両群間の差異が強く影響しているのではないとも考えられるが、この点に関しては、臨床群の研究を行いさらに検討する必要があると考えている。

ところで、CDI陽性の比率は、Exnerの資料では非患者成人の3%であるのに対し、日本人被検者の資料では35%(高橋・西尾)と日米で著しく異なっている。このことからCDIの計算に当たってアメリカの基準をそのまま我が国の被検者に適用することには問題があるのではないかと我々は考えているが、先程述べたCOPを例にとっても、Exnerの平均値が2個であるのに対し、日本人被検者の平均値は1個であり(高橋・西尾)、COP<2というExnerの基準では、多くの日本人被検者が該当するという問題がある。このためCDIとCOPに関しては、Exnerの基準に従って解釈すると、アメリカ人よりも日本人が対人関係の問題が深刻であるという結論になる可能性もあり、この点は今後の検討課題であろう。

#### 今後の課題

本研究では、各変数や項目を単独で比較して男女間の差異を検討した。しかし実際の解釈は幾つもの変数や項目を考慮しつつ行われるのであり、単独の変数や項目によることはない。その点を考慮した性差の研究は今後の課題である。

また、既述のように、比率、パーセンテージ、特殊指標およびその他の変数で用いられる特定の基準値(判別点)は、Exnerがアメリカ人被検者の資料に基づいて決定したもの

であり、それらをそのまま日本人被検者に適用することには慎重であるべきだと考えている。日本人被検者の資料に基づく基準値の設定は今後の研究課題であろう。

#### 文 献

- Exner, J. (1986) The Rorschach : A comprehensive system. Volume 1 : Basic foundations (2nd ed.) New York: Wiley. 高橋雅春・秋谷たつ子他監訳 1991 現代ロールシャッハ・テスト体系(上・下) 金剛出版
- Exner, J. (1990) A Rorschach workbook for the comprehensive system (3rd ed.). Asheville, NC : Rorschach Workshop. 小川俊樹監訳 1992 ロールシャッハ・テストワークブック 金剛出版
- Exner, J. (1991) The Rorschach : A comprehensive system. Volume 2 : Interpretation (2nd ed.). New York : Wiley. 藤岡淳子・中村紀子・佐藤豊・寺村堅志訳 1994 エクスナー法 ロールシャッハ解釈の基礎 岩崎学術出版社
- Exner, J. (1993) The Rorschach : A comprehensive system. Volume 1 : Basic foundations (3rd ed.) New York : Wiley.
- Hyde, Janet S. (1985) Half the Human Experience : The Psychology of Woman (3rd ed.). Lexington, Massachusetts : D.C. Heath.
- 村山久美子 (1987) 女性心理学入門 誠信書房
- 笹田明子 (1993) ロールシャッハ・テストからみた中年期女性の心理的特性に関する予備的研究 ロールシャッハ研究35号, 73-91
- 高橋雅春・北村依子(1981) ロールシャッハ診断法 サイエンス社
- 高橋雅春・西尾博行(1994) 包括的システムによるロールシャッハ・テスト入門-基礎編- サイエンス社

1996年12月18日 受稿

1997年2月1日 受理